さらには船場にある4つの神社にも参加いただき神輿や太鼓などの“お宝”も展示しました。今宮戎神社もイベント参加し、福娘たちに商店街を練り歩きながら餅を配っていただきました。また『船場まつり』と同じ時期に、船場を知ってもらう『せんば検定』も実施。これは『大阪検定』の企画会議座長でおなじみ、大阪府立大学の橋爪先生に作っていただきました。

市民力を活かすプラットフォーム

佐藤　後半は、ご来場の方々のご意見も交えながら議論したいと思います。皆さんは、全体像として「どんな大阪にしたい」という思いがおありですか?

日比　皆さんのお話を聞いて、民がこれだけ頑張れるのは大阪の特徴だなと再認識しました。この活力を生かして行政とつながり、いろんな仕組みを考えていけばよいのでは。

日比氏

室井　現在は都市間競争の時代。勝ち残れない都市は廃れていく。フランスのリヨンは光、ナントはアートや文化という切り口で売り出しています。大阪はやはり「水都」をブランドにするべきでしょうね。

佐藤　会場からご意見があるようです。どうぞ。

来場者 大阪といえば「くいだおれ」ですが、この言葉を海外から来られる方々はどれだけ理解しているでしょうか。カルチャーの意味も込めて「食文化の都市 くいだおれのまち大阪」としてはどうか。また、御堂筋パレードがなくなったことを、府民も市民も大変残念に思っています。府が無理なら市やその他の団体が中心となってやれませんか。水を利用したまちおこしなども積極的にお願いしたい。

小嶋　『食博』の実行委員である私の立場から申し上げれば、食は文化。食を通じて都市格を上げていきたいと考えます。私は何十年と食に携わっていますが、今でも初めて見る食材があるんですよ。それが大阪で見られるのは昔からここが「天下の台所」といわれる食の情報と物流の拠点だったからです。大阪を、大阪人が誇りに思える食の都にしていきたいですね。

山崎　イベントの件ですが、行政がお金を出さなくなったから残念、ではなく、大きなイベントが無理ならNPO団体や市民が小さなイベントに刻んででも毎月できるものにしていく方法もあるんじゃないかと思います。その際にプラットフォームづくりが重要になってくるんですね。さらに個々のプラットフォームが有機的に結びつく「大水都大阪プラットフォーム」みたいな仕組みができると、また違ったフェーズで大きなことがやれるのではないでしょうか。

泉　我々の『OSAKA旅めがね』にも、いろいろな参加者がいます。それぞれのプラットフォームがつながれば、旅だけでなく「水」や「食」などのテーマにも乗りやすい。

文化活動と経済効果

来場者（企業関係） 中小企業の立場からすると、大阪の文化とビジネスは切り離して考えられません。文化活動に経済効果はあるのでしょうか?

佐藤　確かに経済効果が出ないと意味はありません。ちゃんと出ているんですよね?

小嶋　『食博』は12日間で220億の直接経済効果があります。継続することで日本最大の食の祭典になりえますし、その“日本一”を大阪で開催することに大きな意味があると思います。

室井　『水都大阪2009』については、大阪府立大学の荒木先生が試算されたものを紹介します。事業費が約9億、宿泊や飲食などの経済波及効果が約67億、パブリシティ効果として約13億。これは水都大阪がメディアに掲載され、お金に換算した金額です。税収効果は国と地方税を足して約7億。総合的にみると大きな経済効果があったと判断できます。

行政と民間の役割と協働

佐藤　『水都大阪2009』では、アート船『ラッキードラゴン』も非常に好評だったと聞きました。その後はどうなりましたか?

伴　置いてあります。復活を願って存続させたいのですが、どこに停泊させるのか、また火を噴く構造上の問題など、行政や法律、お金がからむさまざまな問題があります。市民の力で何とか残したいですね。

佐藤　花火大会もいろんな課題があるんでしょうか。行政と民間との役割をどう分ければ上手くいくかなど、具体的な解決策をお示しください。

小嶋　全国の花火大会はほとんどが行政の費用で開催されています。しかし我々の場合は例外が1回のみで、後はすべて民が費用を捻出してきました。毎年事業費は約2億5〜7千万。ほぼ地元の人の工夫で賄い、資金も数千円からの寄付や財界からの応援で成り立っています。しかし、問題は行政とのかかわり。規制やその他をやはりスムーズにしてもらいたいし、例えば大阪市であれば、地下鉄の駅に無料でポスターを貼らせてもらうだけでも非常にありがたいんですが。

室井　私も行政には、水辺を使う場合の規制緩和を長期的な視点から考えていただきたいし、各行政の部門間横断の連携もお願いしたい。

来場者3（行政関係） 『水都大阪2009』では規制その他でご迷惑をかけたこともありました。しかし皆さんの熱い思いに動かされ、結果的に規制緩和につながったものもいくつかございます。プラットフォームについては行政も前向きに参画していきたいと考えます。

来場者3（行政関係） 私も、従来の縦割り行政の意識を変えるべく局横断的に取り組んできたつもりです。『水都大阪2009』では市民との協働や横の連携など、大きな輪が広がったと思いますので、その輪をさらに広げていきたいです。

佐藤　行政も変わりつつあるなという感じは、私もいたします。だいたい議論が出尽くした感がありますが、民力を生かす方法についてもう少しお聞かせください。

大阪の魅力を民の力でアピール

小嶋　例えば『なにわ淀川花火大会』では、当日1000人、翌日の清掃に1000人、計2000人のボランティアがいます。掃除だけで800万ほど節約できますし、大変ありがたい大きな力です。

山崎　2000人の力とは、勇気づけられ